アイデアコンテストへの挑戦

自主活動

実施日:2022年8月18日～2023年3月26日
実施場所:桐生キャンパスGFL室
リーダー:理工学部物質・環境類2年　岩崎 圭汰

コンテストの概要

一般社団法人発明学会が主催する、「身近なヒント発明展」では、アイデア部門別にアイデア・発明作品を募集している。「商品化採用」を前提に審査に参加するため、**「商品化にもっとも近い発明コンクール」**として知られている。アイデアが良ければ、老若男女に問わず商品化採用の可能性がある。

参加の目的

コンテスト応募を通して試し・鍛える

参加メンバー

医学部
・医学科3年　1名
・保健学科看護専攻2年　1名

理工学部
・物質・環境類2年　3名

活動スケジュール

2022年度(活動結果)

8月　活動開始

9月　アイデア出し
　既存の関連商品探し
　アイデア絞り

10月　鈴木先生との相談①

11月～1月　各自で検討

2月　鈴木先生との相談②

3月　関連商品の観察
　アイデアの具体化に着手

4月　活動報告ポスターの作成

2023年度(活動予定)

5月　アイデア内部コンペ
　応募書作成開始

6月　商品案の改善

7月　応募書類提出期限(目標)

9月　一次審査

10月　発明展示会

12月　結果発表(表彰式)

※応募前のため、本発表では、具体的な検討中のアイデアは掲載していません。

総括・今後の展望

2022年度:アイデア商品の応募作品試作に入ることができなかった

理由:2月の段階でアイデア商品の実用性, 利便性, 独自性の追求が不十分であることに気がついた

ただし、実際に活動することで、大きな学びがあった！

商品開発で大切なこと	グループ活動のコツ
対象者, 独自性, 市場価値	情報共有, 活動報告, 役割分担

＝　課題発見力・解決力・創造力の向上につながった！

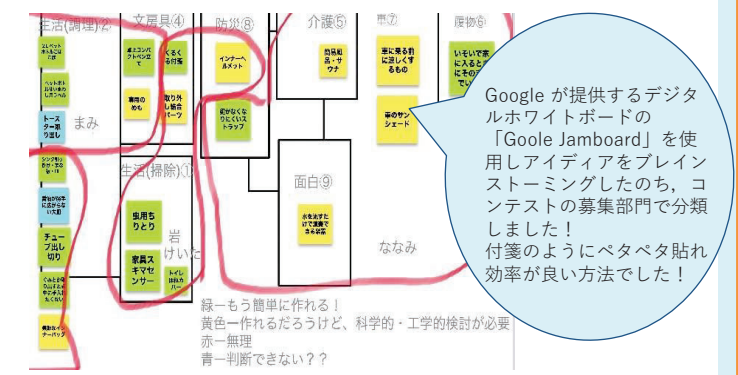
2023年度:　得られた経験をいかしながら、具体化に着手したアイデアをブラッシュアップして、**より良いアイデアを創製し、応募にトライ！！**

具体的な活動内容

① アイデア出し

ｉ)**身の回りの不満や“もっとこうならいいのに“を探索**した。
　まず、新しい商品を考える上で、生活していて不便に思ったこと、困ったことを挙げ、改善点がないかを考えた。

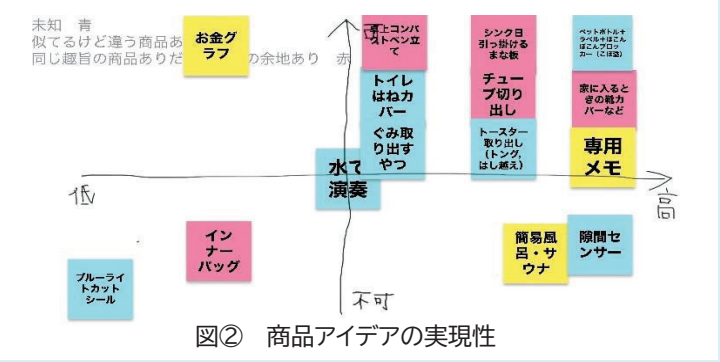
ii)その**不満を解決するためのアイデア出し**をした。
　こんな商品があったら、ｉ)の不満が解消できると思う商品アイデアを挙げ、それをジャンルごとに分類した。



図①　商品アイデアと分類

② アイデア絞り

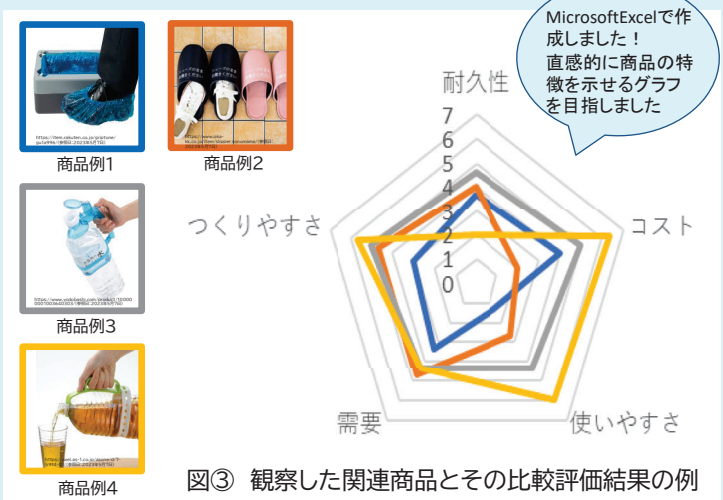
出した**アイデアを需用・実現性で絞込み**をして、テーマの方向性を見つけた。



図②　商品アイデアの実現性

③ 関連商品の観察

絞ったテーマに沿って、既存の関連商品をいくつか購入し、商品評価をした。評価は、**耐久性、コスト、使いやすさ、需要、作りやすさの5つの観点で7段階の点数化で比較**した。 また、通販サイトなどの購入者レビューなどを参考に、各商品のPros&Consをまとめ、商品としての改善点を挙げるなどすることで、応募賞品の具体化に着手した。



図③　観察した関連商品とその比較評価結果の例